

観光事業論グループ発表

航空事業 JAL&ANA の比較

徳元 望
当真綾乃
林 セイ
宮城奈々
大城涼子

JALプロフィール

- ❖ 正式名称：株式会社日本航空インターナショナル
- ❖ 一般的には、日本航空、日航、JALと通称されることが多い
- ❖ 日本最大の航空会社で日本のフラッグ・キャリア
- ❖ JALグループ
- ❖ 日本トランスオーシャン航空（株）、琉球エアコミューター（株）、（株）TFK、（株）JALホテルズ、エアフライトジャパン（株）
- ❖ グローバルビルディング（株）

JAL 歴史(1)

- ❖ 1951年8月：初の民間航空会社として日本航空が設立
- ❖ 1954年2月：初の国際線を開設（東京-ウェーキー-ホノルル-サンフランシスコ）
- ❖ 1965年1月：日本初の海外パックツアーであるジャルパック発売開始
- ❖ 1967年3月：世界一周線西回り線開設。翌日には東回りが出発
- ❖ 1970年7月：ボーイング747型機導入
- ❖ 1978年5月：国際線を東京国際空港から新東京国際空港に完全移管
- ❖ 1982年2月：日本航空350便墜落事故
- ❖ 1985年8月：日本航空123便墜落事故
- ❖ 1986年7月：初の国内ローカル線を開設（東京-鹿児島線）

JAL 歴史(2)

- ❖ 1995年6月 : 日本の航空会社として初のウェブサイトを開設 (予約開始は翌年から)
- ❖ 2002年10月 : 日本エアシステムと経営統合し日本航空システム設立
- ❖ 2004年4月 : 日本航空、日本エアシステムをそれぞれ日本航空インターナショナル、日本航空ジャパンと商号変更
- ❖ 2006年4月 : 日本航空インターナショナルを存続会社として、ジャルセールスと合併
- ❖ 2006年10月 : 日本航空インターナショナルを存続会社として、日本航空ジャパンを吸収合併
- ❖ 2007年4月 : 日本航空インターナショナル、日本アジア航空、JAL ウェイズ、JALエクスプレスジェイ・エア、日本トランスオーシャン航空が『ワンワールド』に正式加盟・サービス開始。

ANAプロフィール

- 正式名称：全日本空輸株式会社
- 通称： 全日空、ANA
- 世界的な航空会社連合スターアライアンスのメンバー



ANA歴史（1）

- ❖ 1952年12月：日本ヘリコプター輸送株式会社を設立
- ❖ 1953年2月：ヘリコプターを使って営業開始
- ❖ 1957年12月：社名を全日本空輸株式会社と変更
- ❖ 1958年3月：極東航空株式会社と合併
- ❖ 1971年2月：国際線不定期便運航開始（東京ー香港）
- ❖ 1972年8月：市場第一部に上場

ANA歴史（2）

- ❖ 1973年12月： ロッキードL-1011型機導入
- ❖ 1976年2月： ロッキード事件
- ❖ 1978年12月： ボーイング747型機導入
- ❖ 1986年3月： 国際定期便を運航開始（東京ーグアム）
- ❖ 1991年3月： エアバスA320型機導入
- ❖ 1999年10月： 航空連合スター アライアンスに加盟
- ❖ 2002年12月： 創立50周年
- ❖ 2006年3月： 国際線就航20周年

交通業の歴史

<律令時代～中世>

❖ 駅制

→律令制の崩壊と共に廃れていく

❖ 港や廻船の整備により海上交通が行なわれる

<江戸時代>

❖ 五街道（東海道・中山道・奥州・日光・甲州街道）の整備→宿場町の発展

→交通手段はほとんどが徒歩であったため、旅行を楽しむ余裕はなかった

<明治>

- ❖ 1872年（明治5年）日本初の官営鉄道を新橋－横浜間に開設
- ❖ 1881年（明治14年）日本初の私鉄会社である日本鉄道が設立
→今までよりも楽に長距離を移動することが可能に

<昭和>

- 1960年代：高度経済成長の影響で交通事業が急速に発展
- ❖ 鉄道：蒸気機関車から気動車（ディーゼルカー）や電化された鉄道へ転換が進む

- ❖ マイカー普及が本格化
- ❖ 1964年（昭和39年）東海道新幹線開業
- ❖ 1964年海外旅行自由化により観光による海外旅行が可能に
- ❖ ジェット機旅客機の登場

1970年代

- ❖ ジャンボジェット機の登場
→本格的な大量・輸送時代へ
- ❖ 団体割引運賃の適用された旅行商品の販売により、旅行が更に身近なものとなる

<現代>

- ❖ 鉄道の高速化
- ❖ 移動の快適性の追及
- ❖ プレミアム列車
 - 移動の楽しみに付加価値（高級化など）を与える
- ❖ 豪華客船
 - 低速移動手段の重要性の見直し

飛行機の歴史(1)

- ❖ 1910年（明治43年）日本初の動力飛行に成功
→主に軍事目的で使用される
- ❖ 1922年（大正11年）民間で主に郵便物の輸送目的で使用される
- ❖ 1953年（昭和28年）日本航空や日本ヘリコプター輸送（全日空の前身）が運航開始



飛行機の歴史(2)

- ❖ ジェット機の導入により航空機を利用した旅行の大衆化が進む

→「より速く」に加え、「より安全に、より安く、より快適に」がこれからの飛行機に望まれることである

JAL 特徴

ロゴマーク

- ・ 鶴丸
- ・ 太陽のアーチ



ディズニーとの関係

- ・ 1983年からの東京ディズニーランド (TDL) と2001年9月からの東京ディズニーシー (TDS) のオフィシャルエアラインである
- ・ 参加企業として「スタージェット」 (TDL) と「ブロードウェイ・ミュージックシアター」 (TDS) の2つと提供

- 日本航空のパッケージツアー「JALで行く東京ディズニーリゾート」では、オフィシャルエアラインならではの特典が用意ある
- キャラクターを使用した広告は、このオフィシャルエアラインの権利によるTDRのものと、主に夏と冬に設定されるツアー（JAL SKI等）であり、原則的に日本国内での使用に限定
- 機体全面にディズニーキャラクターが描かれた特別塗装機である「JALドリームエクスプレス」を以前就航
- 同機のミニチュア模型も販売された



JAL

日本航空123便墜落事故

- 1985年8月12日午後6時56分、日本航空123便、東京発大阪行、ボーイング747SR-100が群馬県多野郡上野村の高天原山に墜落した事故
- 同機がしりもち着陸事故（1978年）を起こした後のボーイング社の修理の不適切が原因
- 520人が死亡、生存者4人 単独事故としては世界航空史上最悪の事故
- 乗客の中には著名人が多数含まれていた（歌手の坂本九、女優の北原遥子、阪神タイガース球団社長の中埜肇、ハウス食品社長、大相撲の伊勢ヶ濱親方（元大関）の妻子など）
- 以降、JAL123便は無期限の欠番

ANAの特徴

総代理店制度

- ・ 各就航地の有力企業と提携し、航空会社の業務のうち、市内業務と空港業務を委託するという制度
市内→航空券販売・電話予約センター・また代理店販売促進活動や団体営業
空港→旅客ハンドリング・貨物ハンドリングから、機側における各種業務や機内清掃
- ・ 総代理店は大口の株主にもなる（名古屋鉄道と宮崎交通は全日空の社外取締役を輩出）
- ・ 昨今では予約のインターネットへの移行等で総代理店の業務も変化

ロッキード事件

- アメリカの航空機製造大手のロッキード社による、同社の旅客機の受注を巡って1976年2月に明るみに出た世界的な汚職事件
- 社長をはじめ経営陣から逮捕者を出したばかりか、田中角栄元首相他多数の政財界人が逮捕された

ANA

- ❖ イメージ転換
- ❖ 2003年に「全日空」から「ANA (エイ・エヌ・エー)」へ変更・統一して、ロゴも「全日空」から「ANA」へ、機体塗装もロゴ部分を変更
- ❖ しかし、一般的にはそれ以前から「全日空」もしくは「ANA (アナ)」と呼ばれることがほとんどで、各局の報道番組などでは「全日空」の呼称が現在も使われている
- ❖ 呼称の変更については、「全日空」が中国語で「一日中空っぽ」という意味で縁起が良くないからという説もあるが、国際的企業イメージの構築をふまえて、ANAへと呼称変更されたといえる　しかし国際的な知名度は依然低い

- ❖ 同じ2003年には、TBS系のテレビドラマ「GOOD LUCK!!」の舞台になった事で、よりイメージアップ
- ❖ 「マリンジャンボ」「ポケモンジェット」にいたる特別塗装機
- ❖ これらのイメージ転換の一環として、2005年5月には十数年ぶりに客室乗務員、地上職員などの制服を一新（制服の一新は数年前に企画されていたが、経営状況の悪化から一旦中止されていた）





航空業界における位置、影響力

❖ JAL

現在JALグループはグループ全体で

売上高が航空業界世界**第3位**

空輸売上高で世界**第5位**

輸送量で世界**第7位**に位置付けられている

しかし

2001年の同時多発テロやSARSの影響や
急騰した原油市場の影響

よって

世界中の航空業界は経営不振に陥り
極めて厳しい経営状況に置かれている

その様な状況に加えて

JALでは頻発した航空機のトラブル等で
特に国内線で旅客のJAL離れが進み、国内線
旅客数は減少

しかし、日本で最大の経営規模、国際航路であることを考えると

日本のナショナル・フラッグ・キャリアはJALであり、日本を代表する航空会社といえる

- ❖ ナショナル・フラッグ・キャリアとはその国で最大の規模を持ち、最大の国際航路、国際線網を持つ船会社や航空会社

❖ ANA



JALと並ぶ日本の2大航空会社

国内線はJALとほぼ寡占状態

国際線はアジアに集中

国際航空貨物で郵政公社と提携

国内線はANAがシェア5割と、圧倒的な主導権を握ってきた

しかし

近年、JALとJASの経営統合

国内線の競争関係は拮抗した状態となる

- 2006年度3月期連結決算は国内、国際線ともビジネス需要などが好調
- 売上高、営業利益、経常利益とも過去最高
- トラブルが相次いだ日本航空からの乗客流入などで、国内線での増収もあった

事業規模の比較

	ANA	JAL
従業員数	12,945人 (2007.3現在)	16,821人 (2007.5現在)
資本金	約1600億円	約1000億円
株主数	274,735人	420,205人
旅客数	49,609,000人	58,036,000人

JALグループは、国内 61拠点
164路線
海外 152拠点
276路線

を保有

JALとANAの共通点&相違点

	JAL	ANA
国際線旅客数	14,743,222人 (2004年度)	4,134,000人 (2005年度)
拠点空港(ハブ空港)	成田国際空港 東京国際空港 関西国際空港 大阪国際空港	成田国際空港 東京国際空港 関西国際空港 大阪国際空港
準点空港(準ハブ空港)	中部国際空港	新千歳空港 中部国際空港 福岡空港
保有機材数	232機	187機

客観的評価サイトSKYTRAX評価 5★でランク

	JAL	ANA
総合評価	★★★★	★★★★
ファーストクラス	★★★★	★★★★★
ビジネスクラス	★★★★	★★★★
エコノミークラス	★★★★	★★★★

それぞれの課題

< JAL >

- ❖ 高い安全水準を持った企業へ再生するために安全体制の再構築を行なう
- ❖ 整備基盤の強化
- ❖ 商品やサービスの品質強化
- ❖ 環境負荷の削減
- ❖ テロ・ハイジャックの防止に向けた航空保安の更なる充実など安心・安全対策の強化

< ANA >

- ❖ 空港・空域の容量の拡大
→それに伴う首都圏空港の整備
- ❖ 地方空港の整備高度化
- ❖ 透明性の高い効率的な運営体制の構築
- ❖ RNAV（広域航法）の活用による利便性の向上
→時間短縮・遅延軽減・燃料消費量及びCO2の削減を目指す
- ❖ 空港アクセス・乗り継ぎ改善による利便性の向上
- ❖ ハイジャックやテロに対する安全の強化

❖ トピックを選んだ理由

- 航空会社は一見どこも同じようなサービスを提供しているように見えるが
実際にどのような違いがあるか知りたい
- また、JALとANAを選んだのは、大きな会社なので
比較も易しいと思ったからである

感想

- ❖ 欲しい情報を探すのが苦勞した
- ❖ 航空会社はいろいろな課題を持っているが、その課題に対してどのような取り組みを行っていけばいいのか調べてみたい
- ❖ 航空業界は華やかな印象があったが、経営面やトラブルなど大変なことも多い
- ❖ JALとANAの規模にこんなに差があることに改めて気付いた
- ❖ JALはトラブルが多かったが、世界的にみた評価がこんなに上にあることは意想外

どうも ありがとうございます！

